

学会通信(二〇〇八年一月—二〇〇九年三月)

◎学会員活動

黄英哲「楊基振について—その人とその時代」(論文、『立命館文学』第六〇八号、二〇〇八年一月)

高明潔「グローバル化の中でのモンゴルをどう描くか—内モンゴルの事例研究に基づく」(論文、『A New Global Order in North East Asia, Proceedings of the International Symposium on Global Order from the Perspective of Archives, History, Literature, and Media: Focus on North East Asian Society』所収、風響社、二〇〇九年三月)

砂山幸雄「水羽信男著『近代中国のリベラリズム』(書評、『近きに在りて』第五四号、二〇〇八年一月)、『祭りのあと中国』(講演、東三社会科教育研究会、二〇〇八年一月七日)

馬場毅「日中の大学での教育交流と環境分野における協力」(発表、日中平和友好条約締結三〇周年記念シンポジウム「日中新時代を築く—戦略的互恵関係の課題」愛知大学・日中友好9人委員会・中国国際友人研究会・中日新聞社・東海日中貿易センター・日中文化協会共催、二〇〇八年一月八日、於愛知大学)

藤森猛「中国児童映画の発展」(論文、日

中児童文学美術交流センター「日中児童文化」第五号、二〇〇八年二月)、「中国の娯楽文化と芸術」(講演、第三回市民フォーラムシンポジウム「アジアを知ろう 中国編」日進市国際交流協会主催、二〇〇九年二月二十八日)

松岡正子「汶川地震後の羌族の暮らしと民族文化資源の再建」(ポスター発表、第二回日中科学フォーラム「汶川地震と防災科学技術」日本学術振興会・中国地震局共催、二〇〇九年三月九、一〇日、於北京)、「中国汶川地震後の羌族と羌族民族文化資源の復興」(口頭発表、国立民族学博物館共同研究会「民族文化資源の生成と変貌」二〇〇九年一月一〇日)、「中国四川省汶川地震と少数民族チャン族」(講演、桑名市民大学講座、二〇〇八年一月三日)

中国21 Vol.32 予告(09年12月刊行予定)

特集●辞書のゆくえ(仮題)

愛知大学では今年、現行の『中日大辞典』増訂第二版に大幅な改訂を加えた『第三版』の刊行を予定している。『中日大辞典』は一九六八年の初版刊行以来、語彙の豊富さから多くの方に支持していただいていたが、近年中国語辞典をとりまく環境は大きく変化している。日中国で学習者向けの様々な辞書が出版される一方、電子化も急速に進み、最近では電子辞書が紙辞書をしのぐ勢いになっている。本特集は変容を迫られている辞書の現状に焦点を合わせたものである。一言で辞書といっても、その範囲は極めて広範であるが、本特集では中国語辞典を中心に、紙辞書は今後どうなっていくのか、またデジタル化や語彙のデータバンク化に伴う問題点など、今日辞書が直面している諸問題を、辞書の編集に携わった人々の証言をはじめ多様な角度から考察する。

【座談会】今泉潤太郎・顧明耀・安部悟ほか【論説】上野恵司・荒川清秀・山崎直樹・清原文代・周薦・沖森卓也・尹学義・宮畑一範ほか